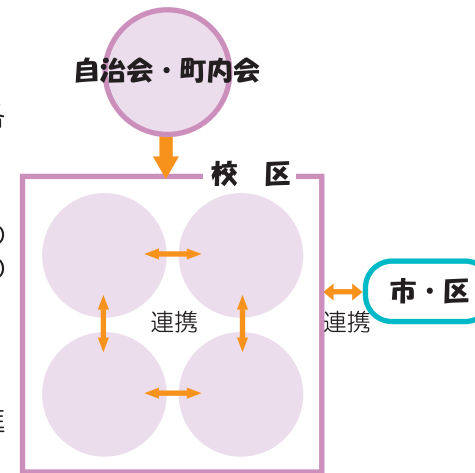


**コミュニティの心構えと行動  
~5つの提言~**

1. 組織体制
2. 場所
3. 連携・機動力
4. 準備・訓練
5. 地域の連携

## 1. 組織体制…地域の事情に合った震災時の組織体制をつくろう!

- 例えば…
- 地域の社会構成などの特性にあった動ける自主防災組織づくり
    - ・町内会や隣組、または女性協議会やPTA、青少年育成会など各種団体を基礎単位として、組織的に動けるようにする。
  - 校区の实情にあった自主防災マニュアルづくり
    - ・構成員の役割分担と行動の具体化、集合や情報の収集伝達のための連絡網、市や区、警察、病院などの連絡網の確立など、人口の構成などを踏まえた校区ならではのマニュアルを作成する。
  - 自主防災組織のアピールと防災意識を高める
    - ・住民に対して、自主防災組織があることをアピールする。
    - ・学習会などを開催し、住民の防災意識の向上や組織への参加促進を働きかける。



## 2. 場所…対応の拠点、なじみある場所を避難所にしよう!

- 例えば…
- 校区避難所の設定
    - ・町内会の集会所などの住民になじみのある施設をはじめ、病院や飲食店などの協力を得て、より安全で安心できる避難所を校区独自で設定する。
  - 避難所などのアピール
    - ・避難所はもとより、公園やトイレなど災害時に必要となる場所や施設など、住民の情報を集め、地域の手作りで地域が使えるマップを作成し、住民に配布する。
  - 避難所生活マニュアルづくり
    - ・避難者同士が協力して秩序ある避難生活ができるようにマニュアルを作成する。  
(安否確認、掲示板・伝言板の設置、生活時間、使用禁止建物への立ち入り、ごみの出し方、トイレの使い方、ペットへの対応、高齢者や障害者への配慮、プライバシーなど)



災害時における  
コミュニティの心構えと行動  
~5つの提言~



## 3. 連携・機動力…各種の団体や企業と連携し機動力を発揮しよう!

- 避難所運営、防災活動の実施
  - ・炊き出しなどの自主的な避難所運営をはじめ、防犯パトロールなどの機動力ある活動できるような体制をあらかじめつくる。
- 校区内の店舗や事業所などとの意見交換の場の設定と取り決め
  - ・店舗や事業所の協力を得ていくために、日頃から地域活動への参加を呼びかけ、コミュニケーションを持つ。
  - ・災害時に店舗や事業所の協力できる内容などを話し合う場を設け、互いの役割をはっきりさせて取り決めを行う。
  - ・防災訓練などへ消防団に参加を要請、指導を依頼し、専門的な知識やいざという時の行動を学ぶ。
  - ・学校など指定避難所となる施設と避難所の設置や運営について事前に協議、確認する。

例えば…



## 4. 準備・訓練…日頃から、無理なくついでに震災の訓練や準備を行おう!

- 例えば…
- 防災訓練の実施
    - ・情報の収集伝達、救出救助、初期消火などの個々の訓練は、興味を持って楽しく参加できるよう工夫する。
  - 日常の地域活動と連動した訓練の実施
    - ・いざという時にあわてないよう、釜や飯ごう、大鍋を準備するとともに、炊き出しの手順や分量を覚えるため、夏祭りなどでの際の炊き出しを実施する。
    - ・運動会などでの救出救助など、防災をテーマにした競技などを実施する。
  - 資機材などの備蓄
    - ・テントやマイクなど日頃の地域活動でも使用する機材を準備し、定期的に点検する。
    - ・大勢の人の中で混乱しないように、自主防災組織役員などへヘルメットや腕章などを準備し、身につける。
  - 小中学校での防災学習、防災体験の実施
    - ・防災訓練をはじめ、避難所生活体験訓練などを楽しく実施し、いざという時に備える。



## 5. 地域の連携…顔見知りを通じて地域の連帯感を持とう!

- 住民名簿などの作成
  - ・安否確認が容易にできるように、行政との協力、住民の理解の下に、高齢者や障害者など災害弱者を把握するための名簿を作成し、準備しておく。
- 校区の状況把握
  - ・パトロールや住民の散歩など、日頃の行動のついでの情報収集により、常日頃から校区の現状の把握しておく。
- 顔見知り活動の実施
  - ・小中学校の旗持ちやあいさつ運動などを実施し、顔見知りの機会をつくる。

例えば…

